

当たり前って何なの？

「当たり前」という言葉をよく聞きます。「当たり前」って、いったいどういうことなのでしょう。「当たり前」の反対語は、「有難し」です。「有難し」は「ありがとう」の語源です。当たり前ではなく、有ることが難しいので、感謝の心が生まれてくるのだと考えます。同じ物事でも、「当たり前」と考える人もいれば、「有難し」と考える人もいるのではないのでしょうか。「当たり前」と考える人が多いときに、「有難し」という考え方を否定されると、苦しい思いをする人が必ずいます。ある事柄について多数派に属する人々は、少数派の人のことを考えているのでしょうか。私自身のことを考えてみると、思い当たることが多々あります。

例えば、次のようなことがありました。ある会社で学習会のお願いに行った時のことです。対応してくださったのは、同年代と思われる男女お二人でした。課長さんと係長さんが対応してくださるということで、私は男性の方を課長だと思い、男性に向かってまず名刺を差し出しました。すると、その方も名刺をくださいました。見ると、係長と書いていました。「しまった」と思いながら、すぐに女性に名刺をお渡ししました。女性が課長でした。私の中のアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）です。私の心には、「女性は管理職に向かない」「管理職は女性には無理だ」といった思い込みが隠れていました。

さらには、私から見ると日本人とは見えなかった人に対して、外国人だと思って話をしているとき、「日本語が上手ですね。」と言ってしまいました。その方は、「父親はフランス人だけど、自分は日本で生まれて日本で育ち、日本語の方が上手だ。」と言われました。私の心には、相手の見た目で「日本人ではない」「母国語が日本語ではない」という思い込みがありました。

また、ある保育の研究会でのことです。若い保育士さんが実践報告をされました。とても分かりやすく、学ぶべきところがたくさんある報告だと思いました。研究協議の時、年長の先生方から、よい実践をしていると評価する意見が次々と出されました。その発言の中に、「若い先生なのに素晴らしい」という言葉が何回も出てきました。私も同じように思いました。しかし、よく考えてみると、「若い人は頼りない」という先入観が私の中にあるのではないかと思ったのです。

このようなアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）は誰にも存在するものですが、自分の中の「当たり前」はすべての人の「当たり前」と同じではないことを意識して生活していきたいものです。